

令和4年度学校自己評価システムシート (県立児玉白楊高等学校)

n19

目指す学校像	母校を愛し、地域の未来を担う心豊かな産業人を育成する学校
--------	------------------------------

重点目標	1 主体的な学びの実現と確かな学力の育成 2 地域と協働した魅力ある学校づくり 3 実学としての資格取得の推進と100%の進路実現 4 社会で通用する産業人の育成と部活動の充実
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年度評価 (月 日 現在)	
年 度	目 標	学 校	自 己	評 価	年度評価	達成度
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	「確かな学力の育成」は、本校にとっても重要課題であるが、「朝学習」の取組の継続が着実に効果をあげており、引き続き地道に取り組んでいく必要がある。 「確かな学力の育成」に最も効果的なのは生徒が主体的に取り組めるようにすることである。それを目指し、教職員自らにベクトルを向け、日々授業改善に取り組む必要がある。その一環としてのICTの活用は、本校では少々進んではいるが、授業での効果的な活用を更に研究していく必要がある。	(1) 教職員が「主体的な学び」の実現に向けて、効果的なICTの活用を含めた授業改善を行う。 (2) 生徒の「確かな学力の育成」に向けた効果的な学習支援を行う。	(1) BYOD環境を活用した授業を行い、生徒が主体的に取り組む機会を増やす。 (2) ICT活用プロジェクトチームにより、生徒の学習活動のICT化を推進し、実践事例を共有する。 (1) 朝学習を活用し、国語、数学、英語の基礎学力の伸長を行う。 (2) 生徒の実態に応じた個別学習や成績不振者に対する指導を充実させる。 (3)ユニバーサルデザインの概念を取り入れ、指導方法や教材提示方法等にICTを活用する。	(1) 生徒アンケートにより、学習に主体的に取り組む生徒の割合を8割程度に維持できたか。 (2) ICTを取り入れた実践事例の共有を行うことができたか。 (1) 基礎力診断テストで基礎学力の伸びを測り、7割の生徒が向上したか。 (2) 成績不振者の割合及び欠点解消率が昨年よりも改善できたか。 (3) 6割の教員がICTを活用できたか。		
2	複雑化・困難化した教育課題を解決するためには、新学習指導要領の「社会に開かれた教育課程」をベースに地域と協働した学校づくりを推進していくことが肝要である。 今年度は新校立ち上げまでの最終年度として、地元自治体等との連携案を具現化し、地域社会と協働した新校の基盤づくりの総仕上げを行う必要がある。 また、児玉高校と協力して、新校の魅力を十分に発信していく必要がある。	(1) 新校立ち上げを見据えた地域との協働による取組を推進する。 (2) 新校及び専門学科の魅力を積極的に発信する。	(1) 地元企業の技術者や農業関係者に講師として来ていただき、その知識や技術を授業や補習等に活用する。 (2) 児玉新校の開校を見据え、「地域協働」による探究活動推進の研究と体制構築に取り組む。 (3) 市や自治体等と連携し、地域交流に取り組む。 (1) 地元小学生等を対象に「親子でおもしろ体験講座」を実施し、ものづくりの良さを体験してもらう。 (2) 地域や上級学校等との連携をより一層推進し、地元中学校教員向けの説明会を実施する。 (3) 各学科の教育活動をパネル展示したり、HPの更新を行う等の広報活動を強化する。	(1) 地元企業の技術者や農業関係者を活用した授業等を年5回以上できたか。 (2) 児玉新校開設準備員会で探究活動の推進及び体制構築に向けた取組を行えたか。 (3) 市や地域の要請により、連携しながら地域交流を行えたか。 (1) 「親子でおもしろ体験講座」を実施できたか。 (2) 地元中学校教員向けの学校説明会を実施できたか。 (3) 学校説明会等で効果的な情報提供ができたか。また、HP閲覧数が昨年よりもアップしたか。		
3	社会で通用する産業人の育成につながる資格取得の推進は、就職内定にも効果的であり、専門学科として大いなる強みでもある。コロナ禍の中、厳しい状況ではあるが、生徒保護者への情報提供等を工夫しながら、更なる資格取得の推進に積極的に取り組んでいかなければならない。 また、例年の就職内定率100%の達成については、学校関係者からは「コロナ禍にあって教職員の苦勞の結果」と高い評価をいただいている。専門学科の強みを生かし、今年度においても引き続ききめ細かな進路指導を教職員一丸となって取り組む必要がある。	(1) 社会で通用するための資格取得の取組を充実させる。 (2) 生徒の進路希望を100%実現させるきめ細かな進路指導等を行う。	(1) 専門性の高い難関資格取得に向け、授業や補習等の充実を引き続き取り組む。 (2) 高校生専門資格等取得表彰、ジュニアマイスター、及びアグリマイスター顕彰等の取得者の増加に取り組む。 (1) 進路指導年間計画に基づき、各学年で進路ガイダンス等の行事を実施する。 (2) 2年生でインターンシップを実施し、勤労観や就労感の醸成を行う。 (3) 3年生で、就職希望者の会社訪問や進学希望者の学校見学を行わせ、進路実現に向けた意識の醸成を図る。	(1) 令和3年度よりも検定や資格の取得率が向上したか。 (2) 高校生専門資格等取得表彰、ジュニアマイスター及びアグリマイスターの取得者が令和3年度よりも増加したか。 (1) 年間計画に基づき、各学年で進路行事を実施できたか。 (2) 就職希望の2年生が全員インターンシップに参加したか。 (3) 会社見学や学校見学により進路意識が向上し、100%の進路実現につながったか。		
4	社会で通用する産業人の育成のため、引き続ききめ細かな生徒指導を推進していく必要がある。特に生徒が信頼される社会人となるために重要な遅刻指導は、引き続き組織的な取組に注力する必要がある。 また、児玉新校を見通して両校で部活動の交流を図りながら、部活動を活性化し、充実させる必要がある。	(1) 社会で通用する人材育成のための指導を充実させる。 (2) 新校統合を見据え両校で交流を図りながら、部活動を活性化・充実させる。	(1) 遅刻指導や整容指導により、社会人としてのマナーを醸成する。 (2) 保護者との連携を強化するため、メール配信を引き続き活用する。 (3) 巡回支援やスクールカウンセラー等を活用し、特別な支援が必要な生徒の支援に取り組む。 (1) 児玉高等学校との統合に向け、合同練習等を通して活性化を図る。 (2) 資格取得のための補習やその他の活動とのバランスを調整しながら、部活動を続ける生徒の割合を向上させる。	(1) 遅刻指導や整容指導により、前年比で指導対象者が減少したか。 (2) 通知・お知らせの配布や行事についての連絡をメール配信でも実施できたか。 (3) 外部支援を年間30回以上活用できたか。 (1) 児玉高等学校等との合同チームで公式戦等に参加する機会が増えたか。 (2) 部活動を続ける生徒の割合が増えたか。		

学校関係者評価
実施日 令和 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等